

静岡県民俗学会会報 196号

<http://web.thn.jp/s-folklore>

2025年12月1日発行

静岡県民俗学会 〒424-0053

静岡市清水区渋川1-9-6-101

✉ S-folklore@fujitnc.ne.jp

振替口座：00850-5-10438

賀久留神社の祭礼

—手草の舞と神幸祭を中心に—

松田香代子・川口円子

はじめに

2025年(令和7)10月11日(土)から12日(日)にかけて、浜松市中央区神ヶ谷町の賀久留神社の祭礼を見学した。本調査は、中村羊一郎氏が2018年に行った調査をふまえて、中村氏、川口円子、松田香代子の3名で行ったものである。この祭礼は田楽と神輿渡御があり、とくに行列の祭具や面、獅子、デコ様と呼ばれる人形に特徴がある。これまで詳細な調査報告もなかったことから、あまり注目されてこなかった本祭礼について、まずは本稿で祭りの概要について報告しておきたい。なお、「賀久留神社神幸祭」は2017年度(平成29)に浜松市の認定無形民俗文化財に登録されている。

1 神ヶ谷の賀久留神社

現在、神ヶ谷町は浜松市中央区に所在するが、近世は敷知郡神ヶ谷村、明治の町村制施行によって敷知郡神久呂村となり、1896年(明治29)郡制施行によって浜名郡となった。1955年(昭和30)に神久呂村が浜松市に編入され、翌年大字神久呂が神ヶ谷町・神原町・西山町に分割される。2007年(平成19)に浜松市が政令指定都市となったことから神ヶ谷町は西区の一部となり、2024年(令和6)行政区の再編によって中央区となった。

このように行政区の再編が繰り返されているが、賀久留神社は「神ヶ谷八幡宮」と称されて同所に鎮座してきた。周辺の大人見・入野・志都呂の各八幡と篠原の若宮を別社としていたという。祭神は、くらみつはのかみ 關御津羽神・くらおかみのかみ 關添加美神・おきながたらしひめのみこと 氣長帯比賣命・ほむたわけのみこと 菅田別命・たまよりひめのみこと 玉依比賣命の5柱である(『静岡県

神社誌』)。延喜式神名帳にある敷知郡「賀久留(カクルノ)神社」に比定され、近世までは神谷明神とも称された。

『浜松市史』史料編三(1959)によれば、1419年(応永26)4月15日付の「賀久留八幡宮造立棟札」があるとされ、1601年(慶長6)には伊奈忠次によって社領15石が認められ、以後江戸時代を通じて安堵されたという。

賀久留神社は佐鳴湖の西北、三方原台地から南流する東神田川の西、宮坂と呼ばれる坂道の東側斜面に鎮座する。神ヶ谷町は古くは東・中・西の3組に分かれており、これに神ヶ谷の「神」をつけて神東組・神中組・神西組と称してきた。各組には屋台があり、祭礼では青年会を中心に曳き回しが行われる。(松田)

2 賀久留神社例祭の概要

賀久留神社の例祭は現在、10月の第二土曜・日曜に行われているが、以前は旧暦10月15日・16日に行われていたという。本年の例祭は10月11日・12日で、その2週間前から注連縄作りや浦安の舞の練習などの準備が始まった。また10月1日には遠州灘の篠原町海岸での浜垢離(前浜禊ぎ)と東神明宮(篠原の若宮八幡)への参拝および奉告祭、10日には浜名湖の白山鼻(佐浜町)での浜垢離(裏浜禊ぎ)と大人見の八幡宮への参拝が行われた。

11日(土)は午後6時から神社拝殿にて夕祭が行われた。手水のあと号砲を合図に神事が始まった。四人の官女が浦安の舞(扇舞・鈴舞)を奉納し、宮司・神供方・奉賛会・責任役員・青年団・神ヶ谷自治会長・各区部長(神中・神東・山の神・神西)が玉串を捧げた。夕祭終了後、6時45分頃から拝殿の幕を下ろして消灯し、神輿への御霊